

見て、ふれる活動を通じた歴史学習

～ふるさと岐阜に対する関心と理解を深める出前授業～ 調査課 河合洋尚

考古学コラム「きずな」No. 9

平成 27 年 3 月 2 日

岐阜県文化財保護センター

<はじめに>

岐阜県文化財保護センターは、県内遺跡の発掘調査や研究、出土遺物等の保存と活用を通して、多くの方に「ふるさと岐阜」に対する関心と理解を深めていただく活動を行っています。

今回は、「ふるさと岐阜」に対する関心と理解を深めていただく活動のうち、学校へ赴いて授業を行う「出前授業」について紹介します。

<出前授業の現状>

図1は平成21年度から平成25年度までの当センターの出前授業を実施した学校の位置を示しています。この図から、県内の多くの学校に呼んでいただいているのがわかります。

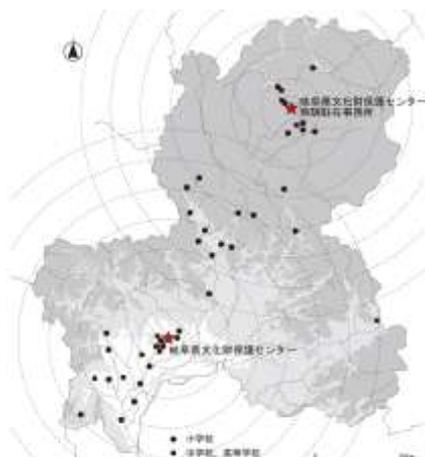


図1 平成21～25年度 当センターの出前授業実施校位置図

図2は当センターの出前授業件数の推移をグラフにしたものです。年々増加していること、次年度以降も継続して依頼いただいている学校が多いことがわかります。

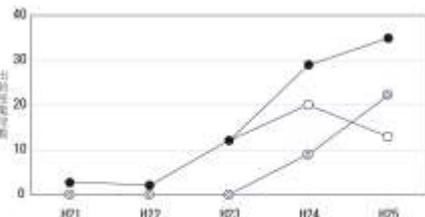


図2 当センターの出前授業件数の推移

平成26年度は、46校、82クラス、2,292名の子どもたちと授業を行うことができました。うち37校が継続校です。なぜこのように継続して依頼していただけるのでしょうか。授業後の子どもたちや先生方からいただくアンケートには、「実物をさわることができる」「出土品や写真から、自分たちが住んでいる地域のその時代の様子わかる」などの言葉を多くいただいています。見て、ふれる活動に喜びを感じていただいているようです。

<実際の授業の様子>

では、実際にどのような授業を行っているか、小学校6年生の弥生時代の学習の一例を紹介します。

弥生時代を知る手だてとして、「縄文土器と弥生土器の比較」を教材として使用します。子どもたち一人一人に縄文土器と弥生土器の破片を渡します。このとき、どちらが弥生土器なのかは知らせません。子どもたちは、似ている点や異なる点などの特徴を見つけていきます。約7分間で、20を超える事実を見つける子どもや、さらに

は私たちが気づかないような細かい点に気づく子どももおり、その高い意欲に驚かされます。観察方法も様々で、見る、ふれるだけでなく、においをかいだり、指で軽く



はじいて音を聞いたりしながら、「分厚い方がきっと古いぞ」「堅くて丈夫そうだから新しいんじゃないかな」とつぶやきながら、土器の新旧を予想していきます。交流の最初は、どちらが弥生土器と思うかを尋ねます。すると、ほぼ全員が正解します。次に、観察したことの交流です。ここでは、時間が足りなくなるほどの活気があふれます。最初はほぼ全員が挙手をして、自分の考えを伝えようとアピールします。意見が出尽くしたところで、「なぜうすい方の土器を弥生土器としたの?」と尋ねます。すると、「うすく作れるようになったことが技術の進歩」「今の私たちの使っている食器に似ているから生活が向上した」などと、観察したことから発展させて自分の生活をふまえた意見を述べます。その後、完形の土器や土器以外の生活道具（石包丁や木製鍬など）を提示し、弥生時代の道具を実感してもらいます。最後に近隣の発掘調査事例を紹介し、自分たちの住んでいる地域にも遺跡があることを知ってもらいます。まとめの子どもたちの感想に、「本物にさわってうれしかった」「昔の人たちも生活をよりよくするために工夫していたんだ」「身近に遺跡があるなんて誇りに思う」「発掘の仕事をやってみたい」などが見られ、子どもたちの関心の高まりにうれしくなります。

<おわりに>

今回は弥生時代の事例でしたが、「縄文時代」「古墳時代」「古代」「中世」「縄文時代から平安時代までの土器比べ」の指導案を用意し、岐阜県文化財保護センターのホームページで紹介しています。また、一部の学校で実施した出前授業の様子も公開しています。是非ご覧ください。

私たちが出前授業を行うことで、子どもたちが自分たちのふるさとを知り、関心をもち、そこから自分たちの生き方やひととの関わり方を学ぶ一助になればと考えています。今後も、子どもたちに「ふるさと岐阜」に対する関心と理解を深めていただけるような出前授業作りを心がけていきたいと考えています。

